

地域社会の教育に対する意識

— 調査の中間報告 —

教育学部 教育研究室

(執筆者 金 築 修)

まえがき

社会的な変動と改革のときにおいては、教育の重要性が叫ばれるのが常である。しかしながら多くの場合そのような叫びは、教育を眞実に改革する力とはなり得ず、観念的な、時としては甚だ虫のよい要求であつたり、單に一つのスローガンに終つたりする。日本の教育を今日の現実社会の基盤の上に打立てることは、既に一つの合言葉となつていともいえる。それにも拘らず、否むしろ合言葉になる程にまで人口に膾炙されたが故に、今日の教育現実にそうした危険が存するともいえるのではなからうか。

このような過誤を避け、力ある教育改革を実現するためには、時代の要請に合致した行政的施策とそれを裏づける財政的基礎が與えられなければならないが、このような施策の根幹には、今日のわれわれの住む現実社会を厳しくみつめ、そこにある実態とそれからとり出されてくる教育の課題に基いて、学校教育を含めたあらゆる教育の設計と遂行を推しすすめる意図がなければならない。

われわれはこのような意図を具体化する第一着手として、地域社会の人々が教育に対してどのような関心と意識をもっているかということ

毎年或は隔年毎に、継続的に調査することを計画している。こうした計画の全体についてはこゝで述べる余裕がないので、別の機会にゆずる。こゝにのべるのは右の調査のうち、「学校教育に対する意識調査」の予備調査の結果である。この結果についての検討を経て、この後県下全域に対して標本抽出法による本調査を施行する予定である。本調査の結果をまたないで予備調査の結果をこゝに掲載するのは、われわれの研究の段階を記録の形において残してゆきたいという意図に外ならない。

一、調査の内容および方法

この調査は地域社会の人々が学校教育に関してどのような意見を持ち、どのような考え方をしているか、またその要求するところは何かを知ろうとするものである。対象には地域社会のあらゆる階層、年令、職業の人々を求めようとしたのであるが、この予備調査においては、調査項目の検討に資するという目的から、早急に調査結果を整理する必要があるため、対象の選定は必ずしも統計学的に厳密になされてはいない。県下農村地帯の代表的な地区(一町一村)の組合立中学校の手を煩わして、その校下地域である一町一村の範囲に居住する成人の中から、年令

学歴、職業、生活程度、性別、の諸点をなるべく均等な比率をもつように考慮して、その二十分の一の人数を調査対象として選定することとした。しかし乍ら調査員に中学校生徒を使用したために、対象の選定において、当初の方針とはかなりのずれを生じ、後にのべるような対象の分配状況となつた。

調査の時期 昭和二十五年十二月

調査の方法 次ののべるような内容の質問紙を配付し、(別表一)の調査項目参照)所定の欄にチェックまたは記入させ、調査員が回収する場合に必要な箇所を面接質問によつて補わせる方法をとつた。調査の内容

は次のような領域にわかれる。

- (一) 学校教育全般に関するもの
 - (二) 児童生徒の学力、性行に関するもの
 - (三) 学校の教育内容に関するもの
 - (四) 教師の資質、および社会的地位に関するもの
 - (五) 今後の学校教育の振興に関するもの
- これらの領域についてそれぞれ別表のように細分した調査項目を設定した。

(その一) (別表一)

お願い……学校の教育がどのように行われているか、またどのように改めてゆけばよいかを見るためにこの調査をします。下に書いてあることについて思つたとおりを記入して下さい。

島 根 大 学 教 育 学 部

あなたがこれを記入された日 昭和 年 月 日 あなたの年齢 才 男 女

あなたの職業 _____ あなたの学歴 小学校 小学校高等科 中等学校 高等専門学校以上

どれかを○で囲んで下さい。

- 1 此の頃の教育のやり方をどう思いますか、次の項目のどれかに○をつけて下さい。
 - 1 よくなつた
 - 2 わるくなつた
 - 3 まえとかわらない
 - 4 どちらともいえない
 - 5 わからない

(例) よくなつたと思うことがあれば、それはどんなことか次の中からえらんで○印を付けて下さい。またそのほかにお氣ずきになることがあれば「その他」のところへ記入して下さい。

 - 1 生徒一人一人の特色を生かすように教育が行われている。
 - 2 土地の実情にあつた教育がされている。
 - 3 父兄が学校教育に協力している。
 - 4 自分からすすんで勉強するように教育されている。
 - 5 立派な社会人となるような教育が行われている。
 - 6 その他

(甲) 悪くなつたと思うところがあれば (イ) と同じように次の中からえらんで○印をつけて下さい。

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 基礎になる学力（読み、書き、計算の力）がつかない。 | 2 生徒が自由をはきちがえてわがまゝになる。 |
| 3 学力のつく生徒とつかぬ生徒との差が大きくなる。 | 4 教育が徹底しないのでうわすべりになる。 |
| 5 教育に対する社会の熱意が足りない。 | 6 その他 |

2 この頃の学校の子供のぎょうぎをどう思いますか、次のどれか一つに○をして下さい。

- 1 よくなつた 2 まえとかわらない 3 わるくなつた 4 わからない。

(イ) よくなつたのはどういうところですか○をつけて下さい。

- | | | |
|--------------------------|-----------------------|------------------|
| 1 仕事を熱心にするようになった。 | 2 自分の役目をしまいまでやりとげる。 | 3 ねばりづよくなつた。 |
| 4 わがまゝをいわない。 | 5 ものごとのよしあしのみ分けがつく。 | 6 おちつきがあるようになった。 |
| 7 いつものびのびとあかるくなつた。 | 8 ことばづかいがよくなつた。 | 9 みなりがきちんとしてきた。 |
| 10 きまりよくまもるようになった。 | 11 ものを大切にようになった。 | |
| 12 自分のことは自分で考えてするようになった。 | 13 思うことをはつきり言うようになった。 | 14 その他 |

(ロ) わるくなつたのはどういうところですか、○をつけて下さい。

- | | | |
|---------------------------|------------------|-----------------------|
| 1 りくつばかり言つてすなおに言うことをきかない。 | 2 家の手傳をしなくなつた。 | 3 ものごとをなげやりにする。 |
| 4 ものごとにあきやすくなつた。 | 5 わがまゝになつた。 | 6 わるいことでも平氣でするようになった。 |
| 7 ものごとのよしあしのみ分けがつかない。 | 8 おちつきがない。 | 9 いつも暗い顔をしている。 |
| 10 言葉づかいが悪くなつた。 | 11 みなりがだらしなくなつた。 | 12 きまりをまもらない。 |
| 13 しごとをいやがるようになった。 | 14 ものをそまつにする。 | 15 金銭のむだ使いをする。 |
| 16 その他 | | |

3 この頃の学校の子供はよく勉強しますか、次のどれかに○をして下さい。

- 1 よく勉強する 2 あまりしない 3 ほとんどしない 4 わからない

(その二)

4 この頃の子供の学力についてどう思いますか、次のどれかに○をして下さい。

- 1 よくなつた 2 前よりも悪くなつた 3 前とかわりない 4 わからない。
- (1) よくなつたのはどんなところですか、次のうちあてはまるものに○をして下さい(二つ以上でもかまいません)
- 1 くすんで勉強するようになった。 2 常識が発達して来た。
- 3 自分でものごとを考える力がついて来た。 4 人の前で自分の思うことを上手に話すようになった。
- 5 新聞をよく読むようになった。 6 その他(お気づきになつたことを下へかいて下さい)
- (2) 悪くなつたのはどんなところですか、次のうちあてはまるものに○をして下さい(二つ以上でもかまいません)
- 1 勉強しようとしなない。 2 勉強がながつゞきしない。
- 3 マンガや小説ばかり読んでいる。 4 読み書きや計算の力が落ちた。
- 5 その他お気づきになつたことを下へかいて下さい。
- 5 学校で一番力を入れて指導してほしいのはどんなことですか。次のどれかに○をして下さい。
- 1 しつけをもつとよくしてもらう。 2 勤労と責任を重んずるような教育をしてもらう。
- 3 衛生に氣をつけ健康に心がけるようにしてもらう。 4 生活の合理化を考えるように指導してもらう。
- 5 読んだり書いたり計算したりする力をつけてもらう。 6 科学的な知識や技能をやしなつてもらおう。
- 7 社会生活が立派に出来るように力をやしなつてもらおう。 8 音楽や繪を味う力をやしなつてもらおう。
- 9 もつと実際に役立つようなことを教えてもらう。 10 その他お気づきになつたことを下へ書いて下さい。
- (家事や家の仕事のこと)
- 6 あなたが学校時代にもつと習つておきたかつた事はどんなことですか。次のものに○をして下さい。(二つ以上でもかまいません)
- 1 文学、哲学、語学など 2 自然科学 3 法律政治経済など
- 4 実務の知識など 5 家庭に関すること(家事、育児、裁縫、衛生など)
- 7 あなたの町村が発展する為には次の職業のうちどれが大切だと思ひますか、大切だと思ふ順に番号をつけて下さい。(5番まで)
-農業.....商業.....官公吏(役場の人、警察官など).....宗教家(神官、僧侶、牧師など).....医師.....教員
-藝術家(画家、音楽家など).....職人、職工その他
- 8 学校の先生にはどんな人がよいと思ひますか。次のものに大切だと思ふ順番に番号をつけて下さい。(3番まで)

その先生の家柄、財産

その先生の人格

その先生の思想、信仰

その先生の学歴

その先生の教壇の経験

その先生の子供の扱い方

9 学校の先生の給料は他の職業に較べてどう思いますか。次のどれか一つに○印をして下さい。

1 仕事のわりに多くもらっている。

2 仕事に似合った程度もらっている。

3 仕事のわりに少くもらっている。

4 わからない。

10 もし学校教育に公の金を使うとすればあなたは今次のどちらへ使つたらよいと思いますか。(一つだけ○)

1 校舎を建てる

2 校内の設備をよくする。

3 先生の給料を高くする。

4 教科書は無償配布する。

5 通学バスをつける。

6 給食を充実する。

7 先生をふやす

8 わからない。

9 その他

11 これからの教育をよくするためには次の二つのうちのどちらのをより大切だと思えますか。(一つに○)

1 学校の設備や環境をよくする。

2 どちらともいえない。

2 先生の給料をもつと高くする。

4 わからない。

(1)の学校教育全般に関しては、まず、よくなつたか、わるくなつたかの総括的な評価を求め、次でそのよい、わるいの内容を、用意した選択肢に○印することによつて答えさせる。(問1)

(2)の児童生徒の学力、性行についても、(1)と同様に、総括的な判断と、それぞれよくなつた点、わるくなつた点を内容的にみる方法をとる。(問2、3、4)

(1、2)においては、どういふ点に今日の学校教育の特色を認めているかを見るのがそのねらいである。

(3)の教育内容については、児童にとつて必要と考えているものを、生活態度、しつけ、各教科についてあげさせ、どの点に要求度が高いかを知るとともに、他方では解答者自身について必要を感じている教養の内

れにあるかを知ろうとするものである。(問10、11)

以上のような意図を織込んで調査を行ったのであるが、対象の選定を充分科学的に行うことができなかったため、調査結果の考察においても、数量的に厳密な考察をすることをさげ、概略の数的傾向からこれを見ることとする。

なお回答総数は一五九人であつた。これを学歴別、生活程度別、性別にみれば、

別表二の通りである。

「調査対象の年齢、学歴、職業、生活程度別および性別分配状況」

| 年齢別 | 学歴別 | 職業別 | 生活程度別 | 性別 | 計 |
|---------------------------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-------------|----------------|
| 6 43 83 14 13 | 20才 30才 40才 50才 60以上 | 小卒 高卒 中等卒 高等卒 以上 | 農工商 農工商 農工商 農工商 農工商 | 上 中 下 | 47 68 44 |
| | | 農工商 農工商 農工商 農工商 農工商 | | 男 女 | 116 43 |
| | | | | | 159 |

二、調査結果およびその考察

調査結果は、これを総数、および年齢別、学歴別、職業別、生活程度別、性別に分けて各調査項目毎に整理しどのような層において特色があるかを明らかにするようにしたのであるが、ここにはその全てを記することができないので、先にあげた五つの領域について、夫々特色のある点、あるいは問題とすべき点のみを資料にもとずいて、ごく大づかみにのべることにする。

なお、この調査は将来、他の地域(類型的にみて調査結果にかなりの相違があると思われるもの)についてであるが、や果下全体の傾向、更に

は日本全体の傾向と対比されることを意図しているのであるが、この場合一応この地域において特色があると思われる点についての考察をのべるにとどめる。

(一) 教育全般について

「この頃の教育のやり方についてどう思いますか」という問に対する回答は次の如くである。

表一 (数字は%を示す)

| 学歴別 | 生活程度別 | | | | |
|-------|-------|------|------|------|-----------|
| | 下 | 中 | 上 | 総数 | |
| 小学卒 | 三六、二 | 四七、七 | 四七、七 | 四一、八 | よくなつた |
| 高小卒 | 四〇、九 | 三六、八 | 二四、九 | 三三、七 | わるくなつた |
| 中等卒 | 三六、九 | 二八、九 | 二四、九 | 二七、七 | かわりない |
| 高専以上卒 | 六、七 | 八、三 | 〇 | 三、五 | どちらともいえない |
| | | | | | わからない |

この表において比較的顯著にみられることは「よくなつた」とするものと「どちらともいえない」とするものの数が、学歴、生活程度を問わず、近接していることである。わずかに専門学校以上の学歴を有するものにおいて、よくなつたとする者が多いと言える程度である。このこと

は、一方において今日学校教育の長所を認めながら、地方ではそのあり方乃至その内容、方法に対する批判が強く存していることを示すものと言えよう。それは、さらに内容に立入つて、どのような点を長所とし、短所としているかをみることによつて明らかにされる。即ち「よくなつた点」として挙げてゐるのは、「一人一人の特色をいかすこと」(三二・一八%)「自分から進んで勉強するように教育されている」(三〇・〇%)ということであり、これは教育の個性化に対する理解と、その自律的方法の承認を示すものと考えられるが、その反面、「悪くなつた点」としては「自由をはきちがえてわがままになる」(三二・四%)「学力のつく生徒とつかぬ生徒の差が大きくなる」(二三・九%)ということが挙げられており、これは長所として挙げられたものを裏がえにしたものとも考えられる。即ち個性教育の原理に対する理解のある反面にその方法上の欠陥が指摘されたまた自主的な学習態度の効果を認める反面にはその指導方法上の欠陥と考えられる学力差が指摘されている。

結局この地域の人々においては、今日の学校教育は必ずしもよい結果をもたらすものとは考えられておらず、改新された教育の内容や方法についての疑義が存していることが認められる。

- (二) 児童生徒の性行、学力について
- (イ) 性行について

ここでは、児童生徒の性行に対して、地域の人々がどのように見てゐるかの実態を明らかにすることを主眼とした。

まず概括的評価をみると次の如くである。

問「この頃の学校の子供の行儀をどう思いますか」というのに対しては表二の通りである。

表二 (数字は%を示す)

| 学 歴 別 | 総 数 | | | |
|-------|-----|-----|-----|-------|
| | 下 | 中 | 上 | 生活程度別 |
| 小学卒 | 三、三 | 三、四 | 三、二 | 七、二 |
| 高小卒 | 四、九 | 一、三 | 三、三 | 九、五 |
| 高等卒 | 三、三 | 三、四 | 三、三 | 四、五 |
| 中 等 卒 | 三、六 | 三、四 | 二、四 | 七、四 |
| 高専卒以上 | 八、三 | 三、〇 | 〇、〇 | 二、七 |
| 生活程度別 | | | | |
| 上 | 六、七 | 三、〇 | 三、二 | 四、四 |
| 中 | 三、四 | 三、九 | 三、六 | 六、一 |
| 下 | 三、〇 | 二、六 | 三、一 | 二、四 |
| 総 数 | 三、三 | 三、四 | 三、二 | 七、二 |

全体として、各項目に対するパーセンテージが近接してゐて、特に著しい変化があると言ふことはみられない。たゞ学歴についてみると小学卒がよくなつたとする者が多いのに対して、高専卒以上のものにわるくなつたとするものが多い点に注意をひくが、両者とも住民総数に對しては人数が比較的少く更に、この調査においても、両者が高小、中卒の者に比して人数が少かつたので、特にとり上げてその理由を追求することに差控えた。

しかし、内容的にそのよくなつた点、わるくなつた点を見ると、今日の新聞、雑誌等において取上げられている児童生徒の行動傾向と略一致するように思われる。即ち、「よくなつた点」としては

思ふことをはつきり言うようになった。——一二・八%



自分のことは自分で考えてするようになった。——一〇・二%
 みなりがきちんとしてきた——九・八%

などがその主なものであり、「わるくなつた点」としては
 りくつばかり言つてすなおに言うことを聞かない——一九・九%
 言葉づかいが悪くなつた——一二・三%
 が比較的によくあげられている。

全体としては、児童の自主性を認め、また教師の鞭からの解放による
 いきいきとした活動性をよいものとしていようであるが、同時にその
 反面には「言うことをきかない」という点を最も悪いこととしている。
 そこには従来の親子関係にみられた服従の観念が多分に残存しているこ
 とも考えられるが、そうした要素を除外するとしても、「わがまま」「手
 傳いをしない」などの理由と共通するものが考えられるようである。
 「言葉づかい」については、之を他の地域と比較してみなければ、この
 地域についての特徴であるかどうか分らない。
 (e) 学力について

概括的評價についてみると次の通りである。(問…この頃の子供の学
 力についてどう思いますか。)

表三

| | | | | |
|-----------------------|-------|------------|-------|-------|
| 総 学 歴 別 数 | よくなつた | わるくなつ た | かわりない | わからない |
| 小学卒 | 四六・一 | 二〇・一 | 二五・八 | 一六・二 |
| | 四〇・〇 | 一〇・〇 | 二〇・〇 | 二〇・〇 |

| | | | | |
|-------|------|------|------|------|
| 高小卒 | 四六・四 | 一七・四 | 一六・八 | 一七・四 |
| 中等卒 | 五二・八 | 二〇・四 | 二一・一 | 一六・七 |
| 高専以上卒 | 三六・四 | 五四・五 | 九・一 | 〇 |
| 生活程度別 | | | | |
| 上 | 四二・九 | 一八・六 | 三〇・九 | 一八・六 |
| 中 | 五三・五 | 一九・四 | 二二・九 | 一六・四 |
| 下 | 三六・九 | 一六・五 | 三三・〇 | 二九・六 |

総数においては「よくなつた」とするものが約半数で圧倒的に多い。
 しかし学歴別にみると、高専以上卒の者においては「わるくなつた」と
 するものが過半数である。

これを内容についてみると、「よくなつた」というのは

常識が発達して来た……二八・四%

自分でものごとを考える……二一・五%

という点で、「わるくなつた」のは

読み書き計算の力が落ちた……四〇・〇%
 マンガや小説ばかり読む……三九・一%

という点である。ここにも戦後の教育について今日問題とされている点

がよくあらわれている。生活的教材である社会科や理科においては、い
 ろいろな知識が豊富に教えられていることを間接的に示すと共に、他面
 では用具としての基礎的な読書等の技術が劣つていすることを明らかにし
 ている。勿論これには新聞、雑誌、講演その他による影響も多分に含ま
 れていることが推測されるので、どの程度に客観的に子供の学力をみて
 いるかというところは疑問であるが、少くとも地域の人々が学力について

このように考えているということは、一般的な傾向として認められなければならないであろう。

なおこの学力というものの定義の仕方によつては調査項目そのものも検討しなければならないが、それについては本調査の時に問題とすることとして、ここでは回答のための選択肢に挙げたようなものを以て仮に学力という言葉におきかえた。

(四) 学校の教育内容について

(1) 児童生徒にどのような教育内容を興えることを要求しているか
漠然と教育内容に関する要求を問うよりも、予め回答のための選択肢を設ける方が、回答も容易であり、整理にも都合であると考え、小、中学校の各教科の教育目標および教科の性格を考慮して次の表にみるような選択肢を設けた。質問「学校で一番力を入れて指導してほしいのはどんなことですか」というのに対してその回答の状況は次の通りである。

表四 (数字は%を示す)

| | | |
|-----|------------------------|------|
| (一) | しつけをもつとよくしてもらう…………… | 一一、二 |
| (二) | 勤労と責任を重んずるような教育を…………… | 一四、二 |
| (三) | 衛生に気をつけ健康に心がけるように…………… | 三、六 |
| (四) | 生活の合理化を考えるように指導…………… | 五、六 |
| (五) | 読書、計算の力をつけて…………… | 一八、二 |
| (六) | 科学的な知識や技能を…………… | 八、六 |
| (七) | 社会生活が立派にできるように…………… | 二二、一 |
| (八) | 音楽や繪を味う力を…………… | 一、九 |
| (九) | もつと実際に役立つようなことを…………… | 一四、五 |

これによつてみると、最も多いのは社会生活能力に対する要求であり、それについて用具教材における基礎能力、実的な知識や技能があげられている。但し社会生活能力についての選択肢のことが適当なかつたということが考えられるので、この点については本調査の際に修正したいと考えている。この項が他の諸項目を総括するような意味に受けとられたと思われるからである。ここでは従つてその点を除外して、他の項目についての要求度をみる。次に多いのは基礎能力と実的な知識や技能であり、全体的にみて教養的なものよりも実的なものへの要求が多いことが認められる。更に之を職業別にみてもこのことは明らかである、特に農業者の二二・六%が基礎能力、二二・二%が実的なものを要求し、他の項目に比し一段と要求度が高い。その他の職業においては社会生活の能力に要求度が集中し、それについて基礎能力に集中している。

以上の事実は義務教育の段階にある学校の教育内容に対する要求としては当然であるということが出来るが、この傾向は、成人自身が必要と考えている教養の内容をみるによつても明らかである。

(四) 成人自身はどのような教養を必要と感じているか。

児童生徒に対する要求と成人自身のもつべき教養に対する要求を対比するために、「あなたが学校時代に習つておきたかつた事はどんなことですか」という質問を提出した。これには、児童に対する要求と成人自身への要求との間にズレが生ずるのではないかとという予想をもつたのであるが、結果は同じ傾向があらわれ、予想は適中しなかつた。

回答状況は次の通りである。

表五 (数字は%を示す)

| 性別 | 職業別 | | | | | | 総 学 歴 別 数 | 文学、哲学 語学など | 自然科学 | 法律、政治 経済など | 実務の知 識 | 家庭に關 すること |
|----|------|------|------|---------------|------|-------------|-----------------------|---------------|------|---------------|-----------|--------------|
| | 農 | 商 | 工 | 事務(会社員) 官吏 | その他 | 専 門 卒 | | | | | | |
| 男 | 28.0 | 26.9 | 25.0 | 27.2 | 26.0 | 27.6 | 25.3 | 31.1 | 29.5 | 27.9 | 33.3 | 28.7 |
| 女 | 30.8 | 30.0 | 28.0 | 27.1 | 26.0 | 27.6 | 23.4 | 30.8 | 29.0 | 27.2 | 33.3 | 28.7 |

全体としてみた場合には、実務の知識が最も要求度が高く、次で文学、哲学などである。ここにおいても児童生徒の場合と同様に實際的なものへの要求が高いことが認められる。これは成人の生活からくる要求であつて当然のことと言える。しかしながら、これを学歴、職業、性別に分けてみると、多少の相違がみられる。学歴別にみると、高専以上卒

の者において人文科学、自然科学への要求度が高い。中等学校卒の者においても人文科学に対する要求が高い。そして高専以上卒にあつては実務の知識に対する要求は比較的低いのに對し中等卒においては人文科学について要求度が高くなつてゐる。この原因については、夫々のもつてゐる生活内容を調査してみなければならぬが、この結果から推測すれば、中等卒の者においては実務に關する教養がたえず要求される程十分であることがうかがわれ他方では一般教養としての人文的教養に憧憬を抱いてゐるといふことが言えるのではなからうか。

職業別にみると、それぞれ従事してゐる職業の性格を反映した要求があらわれてゐる。農、商、工等においては実務の知識への要求が最も高く、次で人文科学となつてゐるのに對し官吏においては、人文科学、自然科学への要求が最も高い。会社の事務員においても実務の知識に次で、人文自然の兩者に對する要求が高いのは同様な傾向を示すものと言へる。

性別にみると、男子が実務および人文科学の教養を求めるに對して、女子は家庭に關するものが要求度が高い。

以上児童成人の兩者から学校の教育内容に對する要求をみてきたのであるが、兩者を綜合して考えると、最も強く要求されるのは實際的な、いわばすぐ役立つような教養であるといふことができる。それと共に基礎的な能力がやはり生活の必要から要求されてゐると見ることができ。この点については、その考え方をそのものを更に分析的に検討することも必要であるが、他方においてはその實際的なものに對する強い要求を学校の教育内容において、どのように取入れていくかといふことについての今後の研究の必要を示唆するものといふことができる。

四 教職の社会的地位および教師の資質について

教育という職能あるいは教職者そのものが社会的にどのような位置にあるかということは、教育そのものの進歩改善にとつて重要な要因である。これをどのような方法において把握するかについては様々な観点およびそれに基づく方法が考えられるのではあるが、われわれの場合には、質問紙法によるという制約、しかもその一部分に調査項目を含めなければならぬという制約から、全体的に把握することは別の機会に譲り、その一面をとり出して調査することとした。

第一には地域社会について各種の職業を、地域の発展に対する寄與の程度について評価し、序列をつけさせる方法を取り、その中において教育者がいかなる地位をしめているかを見ようとした。質問事項は「あなたの町村が発展するためには次の職業のうちどれが大切だと思えますか」というのであり、農、商、工……職人に至る八つの職業について序列をつけさせた。結果は次の通りである。

表六 (数字は%を示す)

| | | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|----|
| | 農業 | 商業 | 官公吏 | 宗教家 | 医者 | 教員 | 芸術家 | 職人 |
| 総数 | 三三〇 | 三三〇 | 一九六 | 九九 | 八二 | 七二 | 一六 | 七三 |

これによると、教員の序列は八つの職業のうち七位で極めて低いといわなければならない。しかもこれを年令別、学歴別、職業別その他のいろいろな点についてみても略同様の結果が見られる。しかしこれについては質問の方法の妥当でないことが指摘されるので、この表をそのまま資料として利用することは今の場合差控える。

次に別の観点から教職に対する評価を示すものとして教師の給料に対

する意見を求める方法をとつた。質問は「学校の先生の給料は他の職業に比べてどう思えますか」として、家柄、人柄、経験等六つの項目に序列をつけさせた。

その結果は次表の通りである。

表七 (数字%を示す)

| 学歴別 | 総数 | | | | |
|-------|----------|--------|----------|-------|----|
| | 多くもらっている | 似合つた程度 | 少くもらっている | わからない | |
| 小学卒 | 0 | 五三 | 三三 | 一〇 | 四〇 |
| 高小卒 | 0 | 五九 | 三二 | 九 | 四九 |
| 中等卒 | 一八 | 四九 | 三二 | 二 | 二九 |
| 高専以上卒 | 0 | 一八 | 三七 | 一 | 一八 |
| 生活程度別 | | | | | |
| 上 | 0 | 三三 | 六〇 | 一〇 | |
| 中 | 一五 | 三三 | 三七 | 一五 | |
| 下 | 0 | 一六 | 三〇 | 五二 | |

全体として教師の給料の低いことが一般に認められている。学歴別にも小学校卒の者において、似合つた程度もらつているとするものが多いだけで他はすべて少くもらつているとしている。他の生活程度別その他の区分においても略同様の結果があらわれている。このことは教師という職業の性格についてもその重要性が或程度認められていることを示すものといつてよい。但し、わからないとするもの率も相当高いといふ点、ことに学歴の低いもの、生活程度の下のものにその傾向が多いこ

とは十分注目されなければならぬ。

(前記のべた職能的評價においてもこの点に留意した調査方法を考えることが必要である)即ちこの事實は教職に対する一般世人の認識の程度がどのようなものであるかを示す重要な資料であり、更にこれから出発して、より具体的な究明がなされるべきであると考えられる。

次に教師の資質として要求されているものをみてみよう。

「学校の先生にはどんな人がよいと思いますか。次のものに大切だと思う順に番号をつけて下さい」というのに対する結果を示すと次表の通りである。

表八

| 学歴別 | その先生の家納財 | その先生の人柄 | その先生の思想 | その先生の学歴 | その先生の教壇経験 | その先生の子供の扱方 |
|-------|----------|---------|---------|---------|-----------|------------|
| 総数 | 四、三、八 | 三、八、八 | 三、三、五 | 一、五、〇 | 二、七、七 | 三、三、八 |
| 小学卒 | 一、七、一 | 三、一、二 | 一、七、一 | 三、一、一 | 一、五、一 | 三、一、〇 |
| 高小卒 | 三、九 | 三、三、三 | 二、二、二 | 六、四 | 一、〇、一 | 三、〇、八 |
| 中等卒 | 五、三 | 二、〇、七 | 二、九、二 | 一、四、八 | 一、五、四 | 二、二、九 |
| 高専以上卒 | 六、三 | 三、五、〇 | 二、五、〇 | 三、五 | 六、三 | 二、五、〇 |

全体として、最も重要とされるのはその人柄であり、次でその教師の子供の扱い方である。即ち、個人としての対人関係における(この場合特に児童に対して)望ましい資質が要求されており、学歴や思想信仰などの個人的資質はそれ程重視されていないことが認められる。これを学歴別にみてもその傾向は殆ど同様である。教師の社会性に対する要求が

高いことを示すものと考えられる。

(四) 学校教育振興の方策について

前の節においてのべた教職の社会的地位と関連して、教育振興のためにはその方策の重点を物的なものにおくか、人的なものにおくかを調べたのがこの項である。

「これからの教育をよくするためには次の二つのうちどちらをより大切だと思いますか」という問に対して、

学校の設備、環境をよくする…… 七二・一%

先生の給料をもつと高くする…… 一五・八%となつており、壓倒的に

物的施設の充実に関心がむけられている。これは一面、この地域の中学校の校舎が未完成であるという事情によるものとも考えられるが、そうした事情は果下のみならず全国的に共通するものであることから考えて、この傾向はやはり全国的に共通するものと考えられる。

同様なことが、財政支出の費途についての調査においてもみられる。即ち「もし学校教育に公の金を使うとすればあなたは次のどちらへ使つたらよいと思いますか」という問に対する回答は次の通りである。

校舎を建てる…… 一七・八%

校内の設備をよくする…… 四八・〇%

先生の給料を高くする…… 一三・二%

教科書を無料配布する…… 一・三%

通学バスをつける…… 三・二%

給食を充実する…… 〇・七%

先生をふやす…… 二・三%

わからない…… 二・三%

即ち校舎や校内設備の充実が最も緊急とされており、教師の給料は、第三番目に位置している。しかし乍らこのことは必ずしも教師の重要性を認めないということの意味しない。その地域の学校が当面している緊急な課題によつて、両者の何れかに重点が移行するのではないかと考えられる。この点は、今後継続的に同様な調査を行い、その動向を明らかにすることによつて解明さるべきものであらう。

以上の点から、学校教育の振興に関する地域の人々の関心はその地域の学校の当面の必要によつて決定されているとすることができる。従つて、今日の如く物的施設の整備に関する要求の大きい時においては、こういう面から教職の評価をすることは、よい結果が得られないものであるということが出来る。

以上われわれの行つた予備調査の結果に関する二、三の特異点と問題をのべたのであるが、予備調査の性質上、不適當な調査項目も十分検討されないままに調査を行つたため、結果の考察においても屢々重要な点を未解決のままに残さなければならなかつた点がある。なお、この調査結果の整理も時間的に極めて限られていたので、十分詳細な点にまで考察を及ぼすことができなかった。これら不備な点はすべて本調査実施までに検討され補正される予定であるので、その機会に再説することとし、今の場合にはただ概略の結果を中間報告の形で提出することにとどめる。